

堂山下遺跡(入間郡毛呂山町)

どうやました

ここは大類グラウンド/室町時代の集落跡(堂山下遺跡)がグラウンドの下に保存されている



グラウンドには説明板が立っている



堂山下遺跡

ここ大塚グラウンドの地下には、堂山下遺跡が埋蔵されています。

堂山下遺跡は、古暦1300年代前半～1500年代前半にかけて営まれた、関東地方ではほとんど発見されていない室町時代の墓域跡です。

平成21年に1回、埼玉県歴史文化財調査事業団によって、埼玉県立大塚遺跡発掘調査地内、次いで平成24年～25年にかけて、毛呂山町教育委員会の手で、大塚グラウンド敷内の発掘調査が行われ、鎌倉街道を挟み東西に墓域が広がっていたことが明らかになりました。

墓域は西により狭きされ、鎌倉街道に沿って、無縁墓の建物が並び、井戸が多数掘られていました。また、文庫跡中、墓域も発見されました。

出土品には、地元で生産された土製の陶器類、安か成瀬戸や、常滑や陶石で造られた小皿や甕も多数あり、さらに中国から輸入された青磁や白磁、磁製の茶室なども製作した土器も出土しています。井戸の中には銅製の鍍金が使用されたおがき鉢が発見され、墓域に商人がいた可能性もあり、一般の農村とは異なる特徴をもつ墓域であったと考えられます。

堂山下遺跡は、鎌倉街道が新田氏を運ぶ拠点にあり、交通の要衝であったと考えられ、鎌倉時代、室町時代の史料に登場する「堂山館」ではないかと推定もされています。

平成25年3月

毛呂山町教育委員会

堂山下遺跡遺構分布図



発見された井戸跡



墓域跡の土器(左)と内瓦跡



大塚グラウンド周辺を歩こう



大塚グラウンド周辺の歴史をたどるには、大塚グラウンドの周辺を歩くと良いでしょう。大塚グラウンドの周辺には、大塚公園、大塚グラウンド、大塚小学校などがあります。大塚公園は大塚グラウンドの南側にあり、大塚グラウンドの北側には大塚小学校があります。大塚公園は大塚グラウンドの南側にあり、大塚グラウンドの北側には大塚小学校があります。

ここ大類グラウンドの地下には、堂山下遺跡が保存されています。

堂山下遺跡は、西暦1300年代前半～1500年代初頭にかけて営まれた、関東地方ではほとんど発見されていない室町時代の集落跡です。

平成2年に(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって、県立毛呂山養護学校敷地内、次いで平成4年～5年にかけて毛呂山町教育委員会の手で、大類グラウンド用地内の発掘調査がなされ、鎌倉街道を挟み東西に集落が広がっていたことが明らかになりました。

集落は溝により区画され、鎌倉街道に沿って、掘建柱の建物が並び、井戸が多数掘られていました。また、火葬跡や、墓地も発見されました。

出土品には、地元で生産された土製の鍋や釜、愛知県瀬戸市、常滑市周辺で焼かれた小皿や甕も多数あり、さらに中国から輸入された青磁や白磁、鉄製の茶釜をまねて製作した土釜も出土しています。井戸の中からは銅細工の職人が使用する「けがき針」が発見され、集落に職人がいた可能性もあり、一般の農村とは異なる性格をもつ集落であったと考えられます。

堂山下遺跡は、鎌倉街道が越辺川を渡る地点にあり、交通の要衝であったと考えられ、鎌倉時代、室町時代の文獻に登場する「苦林宿」ではないかといった見解もあります。

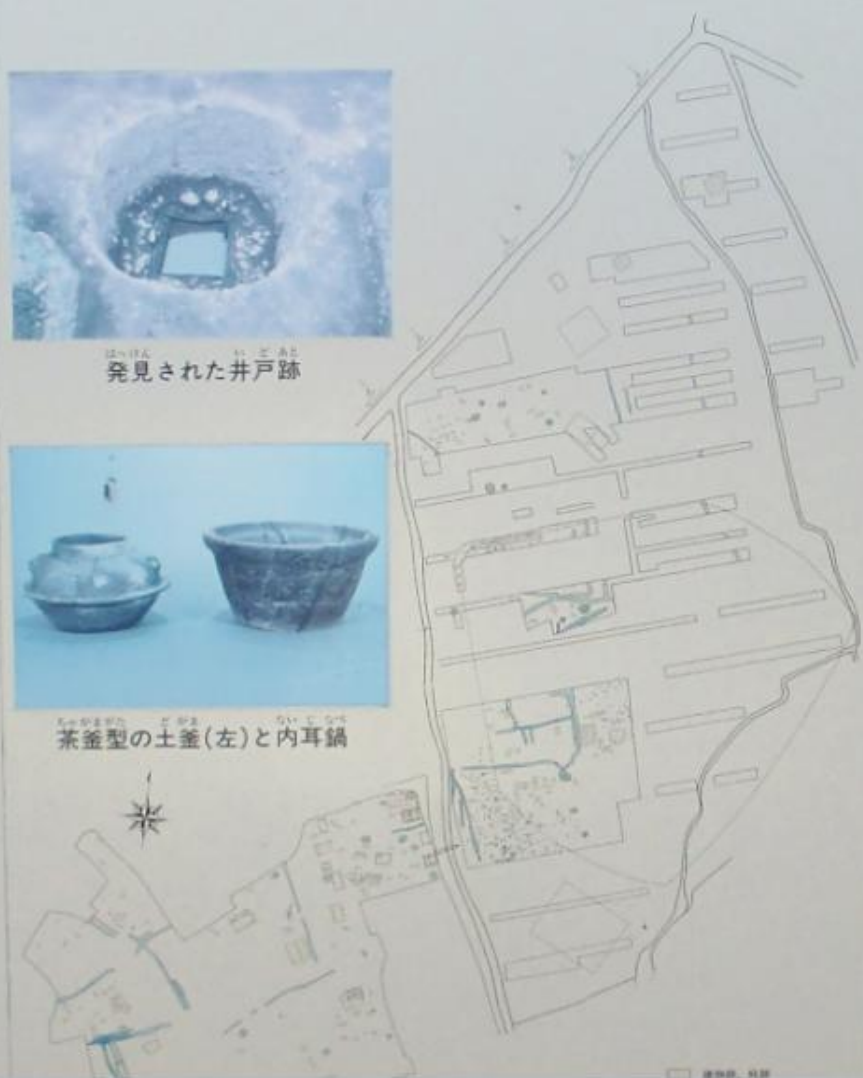
堂山下遺跡遺構分布図



発見された井戸跡



茶釜型の土釜(左)と内耳鍋



グラウンドのすぐ脇には鎌倉街道上道が通っており、また道路の左手は越辺川が流れており、水陸の交通の要所となっていたという



鎌倉街道上道は越辺川を渡って今宿方面へと続く/堂山下遺跡は中世鎌倉街道上道沿いに存在した「苦林宿」と考えられている



参考ホームページ

<http://hva34.sakura.ne.jp/iruma/morosivakata/morogouikou.html>

http://chikatsu-lab.g.dendai.ac.jp/dovamashita_gis/top_dohvamasita.html

<http://www.asahi-net.or.jp/~ab9t-ymh/kakuchi/moroyama01/moroyama2.html>

<http://keny72.blog.fc2.com/blog-entry-704.html>

